

令和5年火災統計（概要版）

火災の発生状況

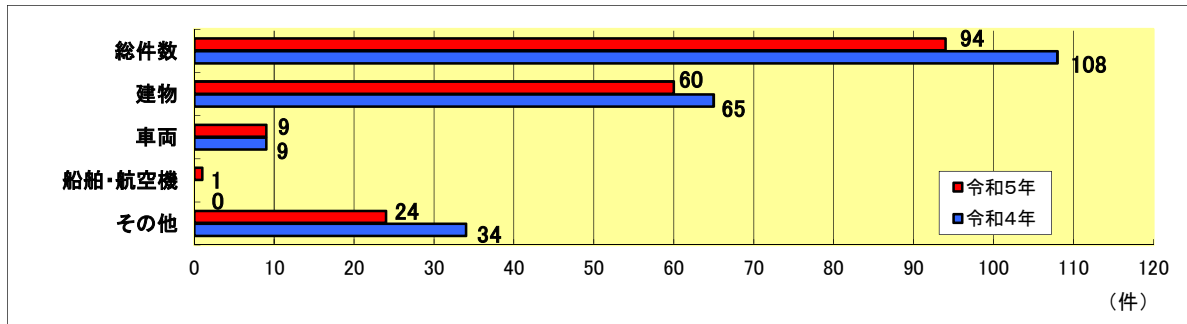
- 令和5年中の火災件数は94件で、焼損床面積は282㎡、損害額は46,980千円、死者2名、負傷者10名となりました。

令和5年	
件数	94件
焼損床面積	282㎡
損害額	46,980千円
死者	2名
負傷者	10名

令和4年	
件数	108件
焼損床面積	1,104㎡
損害額	136,110千円
死者	2名
負傷者	19名

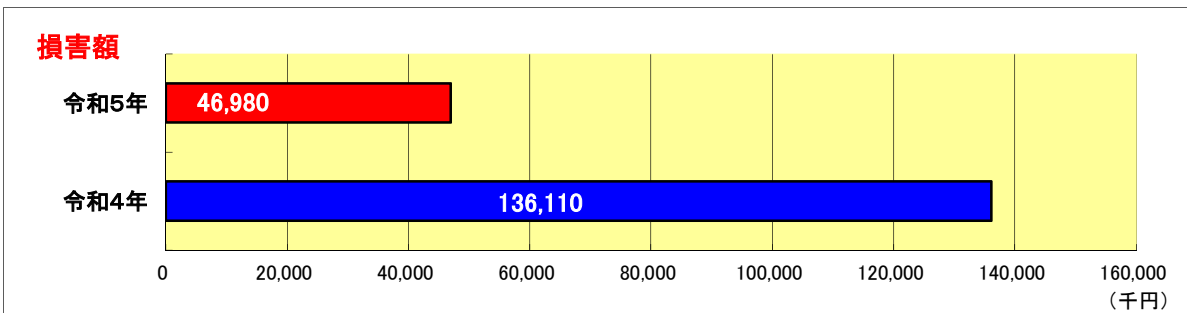
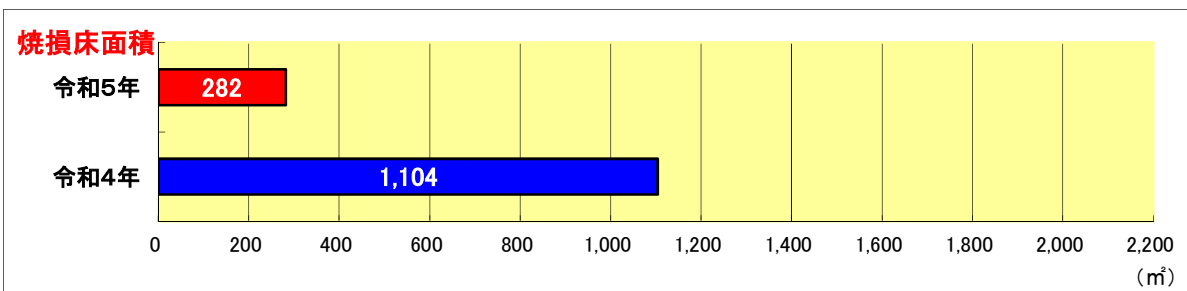
出火件数

- 出火件数は、前年の108件から14件減少し、94件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が60件で5件減少、「車両火災」が9件で増減なし、「船舶火災」が1件で1件増加、「航空機火災」は0件で、「その他火災」が24件で10件減少しました。



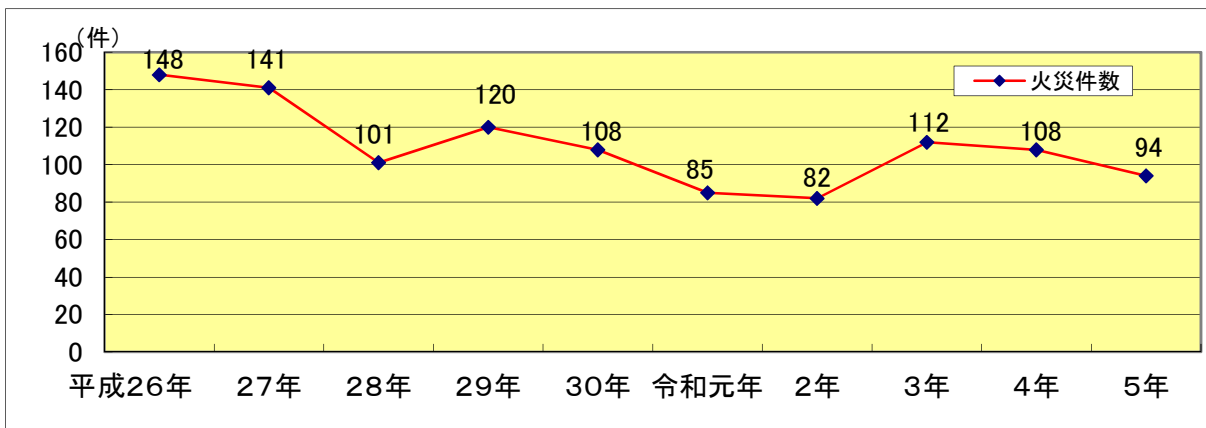
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の1,104㎡から822㎡減少の282㎡、損害額は前年の136,110千円から89,130千円減少の46,980千円となりました。



火災件数の推移

- 令和5年中は94件で、前年より14件の減少となりました。
- 過去10年間の平均は109.9件です。

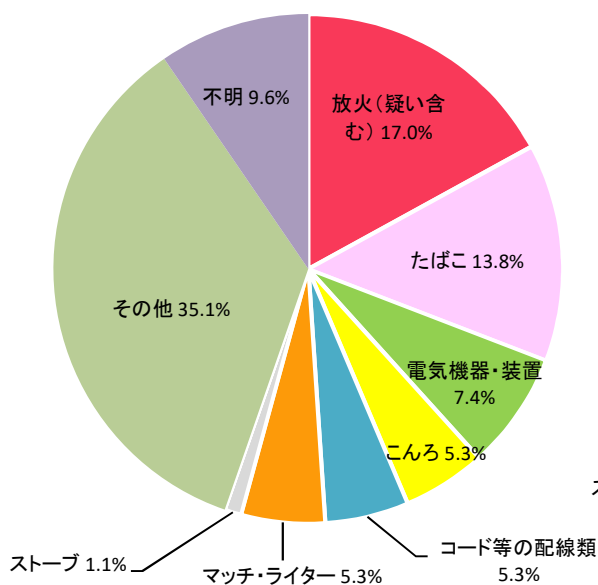


出火原因

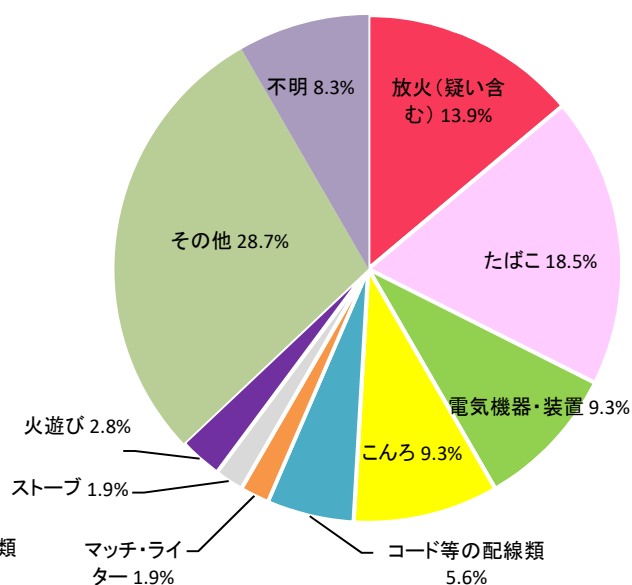
- 主な出火原因をみると、1位は「放火(疑い含む)」の16件で1件の増加、2位は「たばこ」の13件で7件の減少、3位は「電気機器・装置」の7件で3件の減少となりました。
- 各出火原因の上位は「放火(疑い含む)」、「たばこ」、「電気機器・装置」、「こんろ」、「コード等の配線類」、「マッチ・ライター」となり、合計件数は51件で、全体に占める割合は54.3%となりました。

区分	令和5年	令和4年
放火(疑い含む)	16件	15件
たばこ	13件	20件
電気機器・装置	7件	10件
こんろ	5件	10件
コード等の配線類	5件	6件
マッチ・ライター	5件	2件
ストーブ	1件	2件
火遊び	0件	3件
その他	33件	31件
不明	9件	9件
合計	94件	108件

令和5年



令和4年



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は36件で、前年と増減はありませんでした。
- 令和5年中の出火件数94件に占める住宅火災の割合は、38.3%となりました。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「たばこ」、「マッチ・ライター」、「こんろ」、「放火（疑いを含む）」となり、その原因が住宅火災全体に占める割合は52.8%となりました。

建物別	年別	計	放火（疑い含む）	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電気機器・装置	コード等の配線類	その他	不明
一般住宅	令和5年	13	1	2			2	1	1	2	3	1
	令和4年	18	1	5	3	1	1	1	3	2		1
併用住宅	令和5年	2									1	1
	令和4年	1			1							
共同住宅	令和5年	21	3	6	3		2				4	3
	令和4年	17	1	5	4		1	1	1	1	2	1
合計	令和5年	36	4	8	3		4	1	1	2	8	5
	令和4年	36	2	10	8	1	2	2	4	3	2	2

令和5年中の出火原因の第1位は「放火・放火の疑い」

一人ひとりが日頃から放火に対する危機感を持ち、地域ぐるみで放火されない、放火させない環境を作りましょう。

放火火災を防ぐ8つのポイント！



<https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/syobo/kasaiyobo/1037036/116hokabosi.html>

令和5年中の住宅火災における出火原因の第1位は「たばこ」

たばこ火災は、一人ひとりの意識で防ぐことができます。たばこ火災を防ぐため4つのポイントを守りましょう。

たばこ火災を防ぐ4つのポイント！



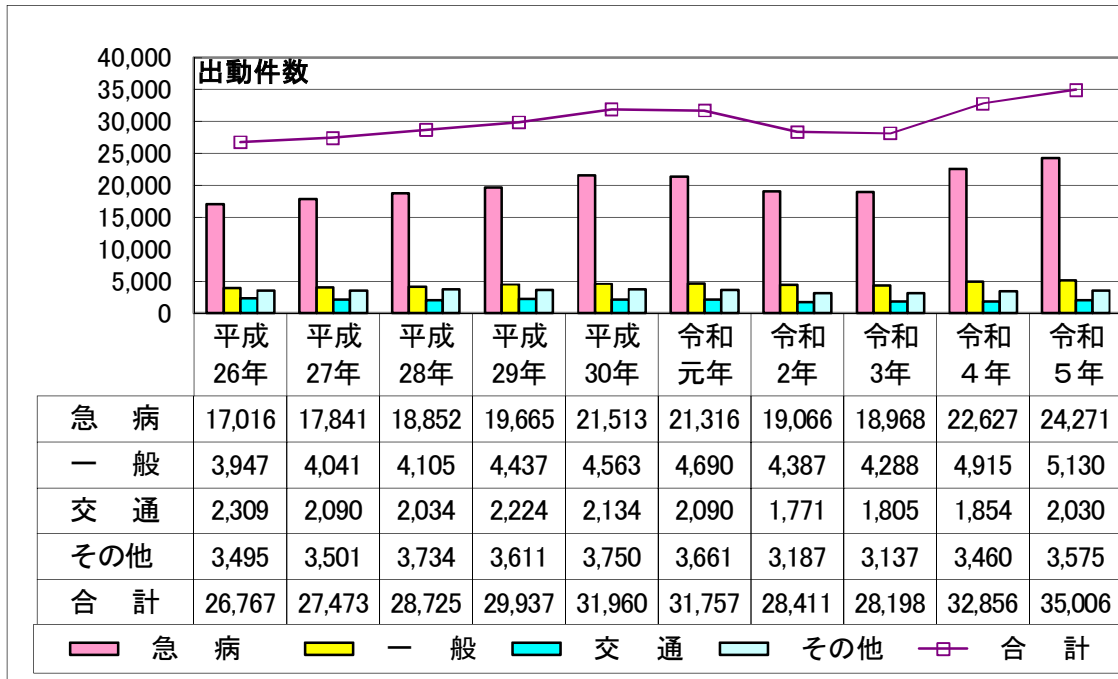
<https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/syobo/kasaiyobo/1037036/1037091.html>

令和5年救急統計（概要版）

令和5年中における救急出動件数は35,006件（前年32,856件）で2,150件（6.5%）の増加となり、搬送人員は29,019人（前年26,330人）で2,689人（10.2%）の増加となっています。1日平均は96件（前年90件）で約15分に1件の割合で救急隊が出動したこととなり、出動件数・搬送人員ともに、救急業務開始以来最多となりました。

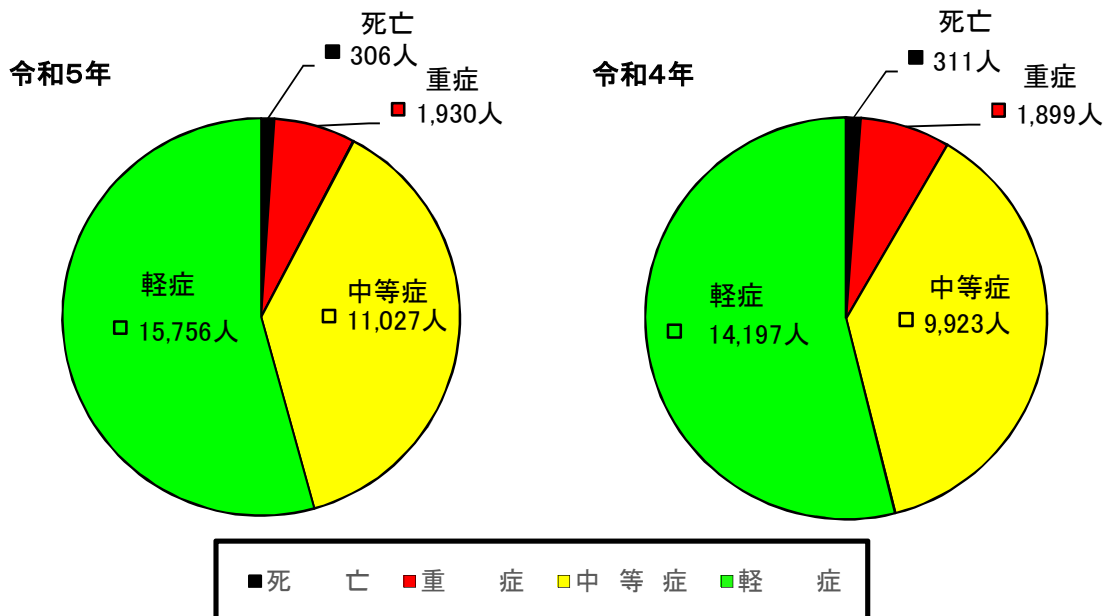
過去10年間の救急出動件数の推移

- 過去10年間の救急出動件数をみると、平成30年までは毎年増加、令和元年からは3年連続で減少に転じましたが、令和4年以降は増加傾向となっています。



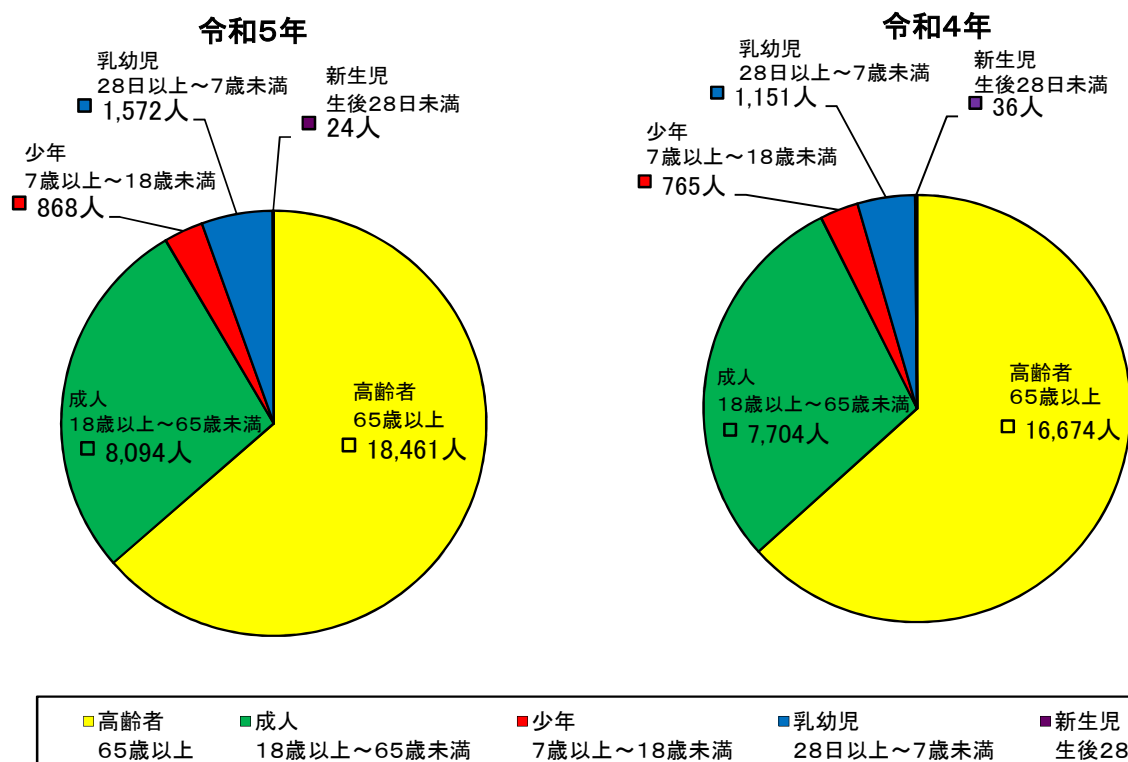
程度別

- 搬送人員を程度別にみると、軽症15,756人（前年14,197人）で1,559人（11.0%）の増加、中等症11,027人（前年9,923人）で1,104人（11.1%）の増加、重症1,930人（前年1,899人）で31人（1.6%）の増加、死亡306人（前年311人）で5人（1.6%）の減少となっています。



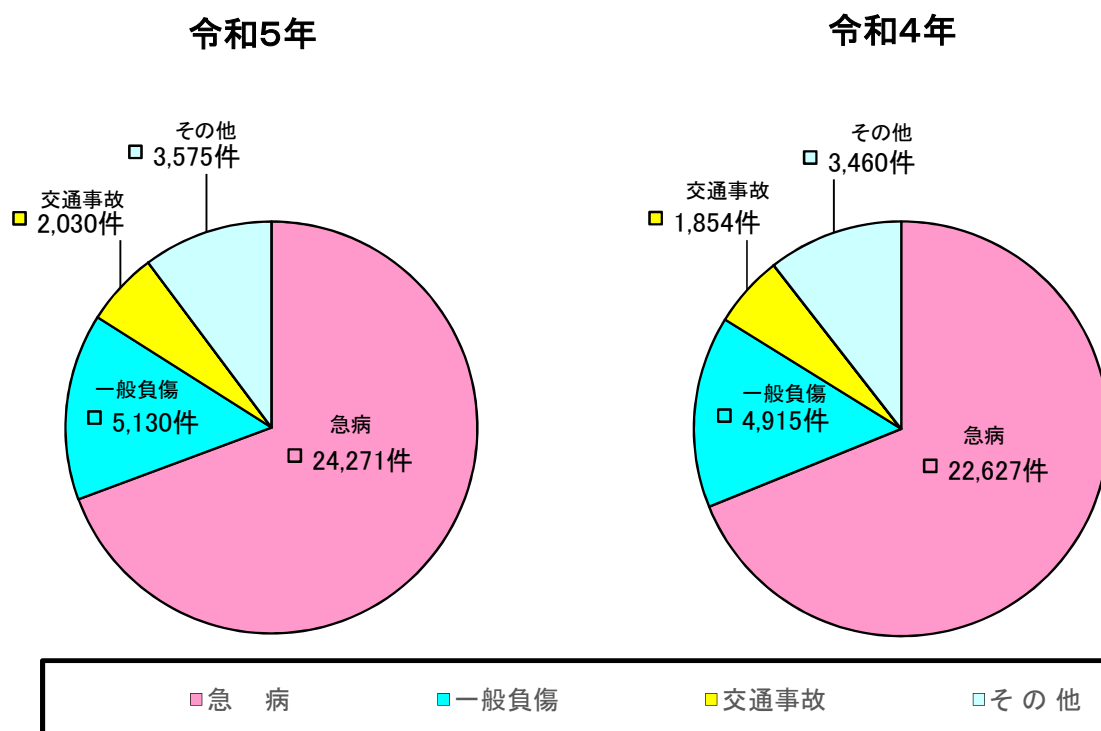
年齢区分別

- 搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が18,461人で最も多く、全体の63.6%で、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順になっています。



事故種別

- 出動件数を事故別でみると、急病が最も多く全体の69.3%で、以下、一般負傷、交通事故の順になっています。



令和5年救助統計(概要版)

- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊の計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和5年中の救助件数は765件(前年700件)で65件(9.3%)増加し、出動延べ隊数は、1,215隊(前年1,192隊)で23隊(1.9%)の増加となっており、事故別にみると建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数765件のうち512件(66.9%)がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

